令和８年度桐生市立図書館整備基本構想・基本計画策定検討委員会
第２回委員会　議事要旨

１　日時　　令和８年９月 28 日（月）午前９時 30 分～午後０時 00 分

２　場所　　桐生市教育センター４階 402・403 会議室

３　出席者　　委　員：石川敬史（委員長）、秋山美和子（副委員長）、森末廣、糸井広江、東海藍、鈴木義史、川村徳佐、齋藤直己
事務局：教育部長、図書館長、図書館建設準備係長、図書館建設準備係主任
事業者：株式会社図書館総合研究所（３名）

４　会議の概要

１　開会

２　挨拶

３　議題

・「桐生市立図書館整備基本構想・基本計画策定検討委員会設置要綱等の一部改正」について、事務局から説明。

・説明に関する意見・質疑応答は、以下のとおり。

発言者	発言内容
委員	委員会は全面公開がよい。市役所建替えの際の議論も踏まえると、むしろ情報を公開しながら進めるべきではないか。市の進め方に違和感を持っている市民もいるため、その声に応えていく必要がある。
委員	候補地について非公開とする必要性はあまり感じていない。様々な事情はあるかもしれないが、あまり隠す必要はないのではないか。
事務局	図書館整備は、現在の図書館及び中央公民館を今後も活用できるかどうかの検討から進めている。候補地を公表することで、現在地や移転先周辺の関係者に影響が及ぶ可能性があることから、関係部局と協議した結果、現段階では非公開とすることが適切と判断した。
委員長	アンケートには施設配置や立地に関する設問も含まれているため、まずはアンケートの意見を確認した上で候補地の議論を行う方がよいのではないか。

発言者	発言内容
	また、本日の委員プレゼンテーションの中でも立地や場所に関する意見は出てくると思うので、具体的な候補地ではなく、図書館がどのような場所にあるとよいかという観点で議論する方法も考えられる。
事務局	現在の図書館・中央公民館を継続利用できるかどうかの検討と並行して、候補地についても検討を進める必要がある。候補地を非公開としているのは現時点での対応であり、将来的には公表できる段階が来ると考えている。ただし、現段階では非公開とさせていただきたい。 これまでの取組の中で、市民の皆様に不信感を抱かせてしまったことについて重く受け止めている。市民との信頼関係の回復に努めているところであり、理解をお願いしたい。
委員長	図書館は市民の施設であり、建物そのものだけでなく、整備の過程も重要。市民の声を聞きながら進めることで、完成後の利用や図書館運営への参画にもつながる。 候補地の議論については、アンケート結果も踏まえながら次回（第３回）以降に行うことが望ましい。本日配布された資料については各委員で確認し、プレゼンテーションの中で立地や場所に関する考え方を議論することとしたい。そして、できるだけ委員会は公開して進めていくことを希望する。

（1）アンケート及びワークショップの実施について

・資料１、２に基づき事務局から説明。

・意見・質疑応答は以下のとおり。

発言者	発言内容
委員	図書館に必要な機能や設備だけでなく、20～30 年後の桐生がどうなってほしいのかという視点から図書館を考えることが大切だ。 ワークショップでは、具体的な施設の話だけでなく、市民が桐生の将来や図書館への思いを考えられる機会にしてほしい。また、自分自身が何を望むかだけでなく、将来の世代や桐生の未来について考えるきっかけとなるよう進めてほしい。
事務局	ワークショップでは、図書館単体ではなく、桐生市のまちづくりや将来像も踏まえながら議論していただく予定である。 第１回では市の現状や取組について説明した上で、新しい図書館で実現したいことや必要な機能について意見交換を行う。まずは自由に夢や希望を出していただき、その後実現可能性も含めて検討していきたい。 また、公募参加者に加え、ＰＴＡや保育関係団体、大学生、高校生など

発言者	発言内容
	にも参加を依頼しており、将来世代の意見も取り入れながら進めたい。
委員	学校にもポスターが掲示され、子どもたちが図書館について考えるきっかけになった。また、「すぐーる」により保護者にも周知できている。 スマホ等で回答できる人だけでなく、紙のアンケートも用意されており、様々な世代が意見を出せる仕組みになっていると感じた。 ワークショップについては、高校生が参加できることがよい。様々な団体から意見を聞けるよう配慮されている。
委員長	アンケートそのものが、市民に図書館の将来を考えてもらうきっかけになっていると感じる。他方で、アンケートには「個」、「私」としての関心に特化した設問が中心であった。桐生をこうしたい、その中での図書館への役割についての設問がなかったのは残念である。 ワークショップについても、高校生や関係団体など多様な立場の意見を聞きながら進めてほしい。また、意見聴取の内容については記録として残し、公表していくことが重要である。
委員	保護者向けアンケートでは、図書館を利用したことがない家庭も多かった。親が利用しないと子どもも利用しないため、子どもが行きたいと思える図書館をつくることが重要だ。 高校生の参加もよいが、ＰＴＡも活用してほしい。ＰＴＡは子どもたちのために活動したいという集まりであり、保護者も関心を持っていると思うので、意見を集める方法として検討してほしい。
事務局	子どもたちの意見を聞く方法について、前向きに検討していきたい。
委員	現時点で、アンケート回答数が 800 件を超えており、市民の関心の高さを感じている。年代別の傾向や自由記述の内容についても把握したい。
事務局	現時点では 30 代以下の回答が比較的多い状況である。 自由記述については今後整理を進める。図書館を利用したことがない方からの意見も多数あり、様々な人が集い交流できる図書館を期待する意見が見られているため、集計後に改めて報告したい。
委員長	自由記述については定量的な集計だけでなく内容を丁寧に読み取ってほしい。また、障害者サービスや多文化サービスなど、多様な人々への対応も重要な視点である。図書館が「公の施設」であることも念頭に入れてほしい。 ワークショップについても、市民が議論の様子を知り、図書館について考える機会となるよう、情報発信や傍聴のあり方を検討してほしい。

（２）既存施設の現状について

・資料３に基づき事業者から説明。

発言者	発言内容
委員長	資料３は既存施設の現状や課題を整理したものであり、今後必要となる図書館のあり方を検討するための基礎資料になる。また、施設整備だけでなく、現在の図書館サービスや活動の評価を踏まえ、今後図書館が担うべき役割について検討することが重要である。

（３）委員によるプレゼンテーション

・Ａ委員によるプレゼンテーションを実施。

・意見・質疑応答は以下のとおり。

発言者	発言内容
委員	ＰＴＡ連絡協議会と保育協議会の協力により、保護者等約 100 名から意見を集めた。 要望として多かったのは、カフェや飲食スペース、キッズスペース・親子の憩いの場、学習スペースの確保であった。本を借りるだけでなく、過ごす場所、集う場所としての機能を求める声が多かった。 また、学校適正配置や耐震化、道路整備など他にも行政課題があるため、図書館整備については費用対効果を十分検討してほしいという意見もあった。一方で、改修にも多額の費用がかかる可能性があることや、立地や機能が明確になれば、受け止め方も変わってくるのではないか。 子どもたち自身の意見を聞くことも重要であり、ＰＴＡを活用して小中学生の声を集めることもできるのではないかと思う。 また、子どもたちが主体となって活動できる場所をつくってほしい。読書会や地域と一緒に行う活動など、子どもたちが挑戦できる場があれば、勉強以外の学びも増える。地域の方々や子ども同士がつながりを持てる場になることで、将来の桐生市にとっても大きな財産になると思う。
委員長	子どもたちの図書館利用は、親の図書館利用の広がりにも関わる。 また、本を媒介としながら図書館が展開されていくという視点があった。図書館単独ではなく、市内の様々な団体と連携しながら活動を広げていくという考え方も示された。
委員	保護者アンケートの内容は、学校現場で聞く子どもたちや保護者の声とも共通していると感じた。 乳幼児を連れた保護者は周囲への気兼ねから利用しづらい面もあるため、小さな子どもや保護者が気兼ねなく利用できる空間や、親子でゆったり過ごせるスペースがあるとよい。小さいうちから本に親しむ環境をつく

発言者	発言内容
	ることで、学校に入った後も本に興味を持てる子につながるのではないか。 学校では読み聞かせの時間を大切にしており、図書館にも読み聞かせを行いやすい場所があるとよい。また、学校向けのセット貸出は大変ありがたく、子どもたちが様々な本と出会う機会になっている。学校と図書館が連携を深めていけるとよい。 更に、子どもたちがタブレットを使う時代であり、タブレットで図書館の本を検索したり閲覧したりできるとよい。
委員	保育協議会で実施したアンケートでは、施設への期待や要望もあったが、それ以上に費用対効果や、今の桐生市に見合った施設とするべきではないかという意見が多かった。 子育て世代の意見を反映することは重要だが、人口減少が続く中で、実態と目標に乖離が生じることを懸念する声もあった。 また、市庁舎整備の例も挙げられ、今の桐生市に見合ったもの、身の丈に合ったものを考える必要があると感じた。
委員長 事務局	子どもたちの居場所づくりや学びの環境整備への期待がある一方で、図書館整備の進め方や費用のあり方についても意見が示された。 委員から図書館建設に関する意見があったが、その点について事務局の考えを聞きたい。 今回の検討は建替えありきではなく、図書館と中央公民館の老朽化によって利用者に不便が生じていることを出発点としている。 まずは現在の図書館が今後も使用に耐えられるかを確認しているが、改修する場合でも大規模な改修が必要となり、多額の費用が見込まれる。また、築 50 年近い建物であることから、改修後にどの程度活用できるかについても確認している。 そのため、既存施設の活用可能性を確認した上で、建替えの必要性や規模、立地、複合化する機能の有無などを検討していきたい。行政としては、最小の費用で最大の効果を上げることを基本としながら、将来人口や維持管理費も見据えて検討を進めていきたい。
委員長	図書館は単なる建物ではなく、資料を収集・整理・保存し、市民に提供する役割を持っている。また、人類の知識や経験を蓄積し、未来を生きる人たちにつないでいく役割もある。 桐生の歴史的な財産や地域の知恵、経験を収集し、次世代へ伝えていくことも図書館の重要な役割であり、デジタル資料もその一部になる。

発言者	発言内容
	図書館は広い意味での学びの施設であり、将来にわたる学びを支え保障する施設である。市民の皆さんにも図書館のあり方について様々な議論をしていただくことが重要だと考えている。

・Ｂ委員によるプレゼンテーションを実施。

・意見・質疑応答は以下のとおり。

発言者	発言内容
委員	書店を運営する立場から、まず蔵書のあり方が課題だと感じている。限られた予算やスペースの中で、どこまで本を収集するのかを考えなければならない。趣味や関心が多様化している中で、資料の整理や更新も必要であり、蔵書の新陳代謝について考えるべきだと思う。 また、人気本の予約待ちが長くなっている状況には違和感を持っている。図書館は大切だが、本を買う人が減ると出版文化そのものが成り立たなくなるため、図書館と書店との関係も考える必要があると思う。 他館との連携やデジタル活用によって、本を必要な時に利用できる仕組みも検討できるのではないか。 図書館には本だけでなく、人と人がつながる機能も必要だ。様々な分野に詳しい人がいて、その人を介して本や知識に出会える仕組みがあれば面白い。また、市民から本を集めてつくる「みんなでつくる図書館」のような仕組みがあれば、市民も図書館づくりに参加できるのではないか。 図書館の存在意義についても改めて考える必要がある。本を読まない人が集まる場所ではなく、本と出会うきっかけをつくる場所であることが大切だと思う。遊びや交流の場から静かに読書する場へとつながり、最終的に知と出会えるような構造があってもよいのではないか。 図書館は誰も拒まない場所、アジールのような場所であってほしい。 施設のイメージとしては、駅北口周辺に市民活動センター的な機能を持つ分館を整備し、市民活動や交流の拠点とすることも考えられる。また、本館は現在地を活かしながら、知の森として図書館を整備できるとよい。 図書館を通じて、文化的な人が増えるまちになってほしい。郷土を知り、異なる考えを持つ人とも共に生きられる人が増え、桐生に住んでよかったと思える人が増えることを期待している。 また、新図書館の計画については、とにかく議論を尽くしてほしい。構想や計画だけでなく設計段階も含めて、市民と対話しながら進めることが重要だと思う。建築コンペなども検討し、できれば桐生で活動している建築家にも参加してもらいたい。

発言者	発言内容
	最後に、本を貸すだけではなく、書店と連携しながら読者を増やしていくことも大切。
委員	興味深い意見だった。市民活動センターや駅北口の空間活用の提案は興味深い。カフェよりも市民食堂という発想は、様々な機能を含む柔軟な入口になり得る。また、「みんなでつくる図書館」という考え方も面白い。本が大量に処分される時代だからこそ、市民の本を活かす仕組みには可能性がある。一方で、蔵書スペースには限りがあるため、本が埋もれず読まれるための仕組みや見せ方を工夫することも重要。
委員長 事務局	前回、委員からは、議論を尽くしてほしいという強い意見、図書館だけでなく桐生全体や公共施設再編も見据えた議論が必要ではないかという意見があった。 一方で、今回の基本構想・基本計画は年度末までというスケジュールが示されている。議論を深めていくためにも、今後の進め方や到達点について事務局の考えを確認したい。 契約上のスケジュールは年度末までとなっており、その中で基本構想・基本計画の策定を進めることになっている。 ただし、様々な意見を聞きながら丁寧に議論を進める考えは変わらない。まずは年度末までに一定の形を示す必要があるため、最低限として基本構想の確定を目指したい。基本計画まで十分に議論が及ばない場合には、契約内容の変更等も含めて検討しながら、引き続き丁寧に進めていきたい。

・Ｃ委員によるプレゼンテーションを実施（事務局による代読）。

・意見・質疑応答は以下のとおり。

発言者	発言内容
委員（事務局代読）	現在の図書館の課題として、開館時間、蔵書管理、読書環境の３点を挙げたい。 開館時間については、平日や土曜日の開館時間をもう少し延ばしてもよいのではないかと思う。桐生市は夜に利用できる施設が少なく、仕事や学校の後に静かに過ごせる場所が少ないように感じる。無人営業などの仕組みも参考にしながら、夜間利用について検討してもよいのではないか。 蔵書については、スペースの制約がある中で、どの本を残し、どの本を更新していくのかを考える必要があると思う。また、市立図書館だけでなく公民館蔵書も含め、市全体として整理や配置を考えることが重要だ。

発言者	発言内容
	読書環境については、現在の読書室は利用手続きが必要で少しハードルが高く感じる。また、館内で気軽に本を読める机や椅子も十分とは言えない。自由に利用できる閲覧環境が必要だ。 インターネット利用についても、調べものや作業をする人にとって使いやすい環境を考える必要がある。図書館は本を読む・借りるだけではなく、誰に何のために利用してもらう場所なのかを改めて考え、それに合わせて設備や運用を見直す必要があると思う。 新しい図書館については、図書館単体ではなく複合施設として考えていくことが重要だ。 また、図書館を目的地として終わらせるのではなく、図書館を訪れた人が周辺の店舗や施設にも足を運ぶような仕組みが必要だと思う。 一方で、新しいものと昔から地域にあるものを対立的に考えるのではなく、両方を活かしながらつないでいくことが重要だと思う。 大学生の立場から見ると、市立図書館を普段利用している大学生は多くない。また、桐生市にどのような施設や店があるかを知らない学生も多い。大学生は桐生で過ごす期間が限られており、地域の情報が伝わりにくい面がある。新しい図書館をきっかけとして人の流れが生まれ、周辺にも賑わいが広がることで、多くの人が桐生の魅力を知る機会になればよい。
委員 事業者	現図書館を改修して使うのか、建て替えるのかという方向性を整理した上で議論を進める必要がある。 また、桐生市と同規模自治体の図書館整備事例についても知りたい。利用者が増加している事例などを参考にしながら検討していくことが重要だ。更に、デジタル化や防災拠点としての役割なども含めて検討できればよいと思う。 参考事例として海南市の図書館がある。従来の利用者だけでなく、これまで利用していなかった人たちに利用してもらうことを目指し、子どもが利用しやすく、会話もできる図書館として整備した結果、利用者増加につながった。また、駅から図書館までの商店街とも連携し、周辺の活性化につながった事例である。 今後もこうした先進事例を参考にしながら検討を進めていきたい。

・委員長より、まとめ。

発言者	発言内容
委員長	本日の議論から、まず一つ目として、議論を尽くしていくことの重要性である。建物を建てるという結果だけではなく、その過程も重要であり、桐生に住む方が納得できるものをつくっていくことが大切だ。 二つ目として、建物そのものではなく、図書館のサービスや活動がどうありたいのかが先にあり、その実現のための施設を考える必要がある。本日の発表の中でも、子どもたちや保護者の利用、学校との連携、人と人をつなぐ場としての役割、大学生や若い世代と地域とのつながりなど、様々な意見が出された。また、その中で図書館の独自性をどのように考えるかも重要な視点になる。 三つ目として、桐生市立図書館の歴史についてである。桐生市立図書館は長い歴史を持ち、1972 年には日本図書館協会から設計に関する提案も行われている。その中には「文化を育てる桐生」という考え方が示されており、そうした歴史の継承も新しい図書館に活かせるのではないか。また、その中には、市民が自発的に利用できるよう力を貸すことが図書館の役割であるとも書かれている。過去の資料の中にも大きなヒントがある。

4　その他

・アンケート集計結果や協議事項等については、今後も随時メール等で委員へ共有する。また、ワークショップの開催状況や結果についても適宜報告する

・次回委員会は 11 月中旬頃を予定しており、早めに日程調整・案内を行う。

5　閉会